



なきごえ



1991

12

松葉 健



さて、私が動物とはじめて接したのはいつの頃だったかと考えてみると、犬や猫とちがって日常的でない動物の実感としては、牛と馬である。牛は小学生のときに身近に触った

り餌をやったりした経験がある。夏休みで父の郷里へいった折、農家はどこも農耕用の牛がいた。農閑期は昼食のあとゆっくり昼寝する習慣があった。そんな或る午後、退屈した私は一人で近くの分家へ出かけていった。石段を上って玄関を入ると、ここも全員昼寝中で、庭に面して開け放された縁側には猫も親子で転がっていた。ふと気配を感じて振り向くと、座敷の上から仔牛がこつちをジーンと見ている。驚いて私は家から飛び出すと猛スピードで追っかけてきた。背後から足音がきこえて鼻息が迫ってくる。もうアカンと道の曲り角で石垣によじ登った。仔牛は急に止まれなくて行き過ぎてから、不思議そうに戻ってきて石垣にしがみついている私のズボンに鼻先でコツいている。しばらくするうち危害がないとみた私は、ゆっくり道において歩き出した。すると、何を思ったのか仔牛はもとの方向に帰っていった。あとで家の人にそのことを話すと、「仔牛も退屈したんやろ、子供同士ともだちがきたと思ってよろこんだんに違いないよ」と皆んなで大笑いだった。それにしても仔牛とはいえ、鶏のように庭で放し飼いでいた当時の田舎は、のどかで、おおらかだった。馬は、といえば、まだ荷馬がトラックやリヤカーにまじって闊歩していたころ、大阪市内の街なかで商売をしていた家の前を、たまにポカポカと足音をたててやってきた。近所に荷物をおろす間、止って白い息をはき、冬でも馬体は汗をにじませ湯気をたてている。近寄ってみると、熱気が伝って、なんともたくましくて、大きな感じがしたことか。それにしてもやさしい目が充血して、哀しそうに見えたのが忘れられない。その荷馬が落としたフンが作物の肥料によいという

ことで、早いもの勝ちの取り合いであった。フンまで人間に尽してくれたのだ。次に思い出す動物は、ネズミである。あの頃は、どこの家でもネズミ退治に頭をひねっていた。町内でもネズミ捕りのカゴにかかると、水中に入れて始末したり、ガソリンをかけて焼いたりして、残酷なようだがそうして繁殖するネズミと闘った。わが家でも例外ではない。ネズミ捕りのカゴを仕掛けた。冬の朝、一匹の子ネズミがかかった。小さくて可愛い手をしていた。父は、「虫でも害虫がいる、可愛そうだと云ってたらきりがないぞ」といったことがある。その父がカゴにかかった子ネズミを処分することになった。家族の見まもるなか、父はカゴに布をかぶせ「公園で始末してくる」といって出ていった。なんとなくイヤな気分だったのでホッとする反面、母の「子供たちに見せたくないんやろ」といったことに不安が残った。見せたくないやり方とはどんな方法かと心配になり、私は父のあとをつけた。父は池のほとりに子ネズミを放し、空になったカゴを池につけ、こわい顔をして帰ってきた。私は姉や弟にそのこと報告しなかったが、母にはそっと聞いてみた。「そうか、お父さんはネ年の生れやし、うちもネズミみたいに子供が多いさかい」と結果が分っているようであった。その後、私が親になり、娘から犬がほしいとせがまれて、ポメラニアンを飼った。娘が小学6年生から大学卒業までの10年間、家族の一員であった。私は大型犬が好きなのだが、せまい庭では可愛そうなので小型犬に賛成した。ペットとして飼うと、可愛がりすぎて、犬が犬でなくなるように思う。家の中が好きで、人間にはなつくが、他の犬をみると警戒して歯をむく。犬にとっては悲劇だろう。しかし、ペットの死は家族を失った時の寂しさがあった。それ以来、動物は飼わないことにした。ところが、いま我が家の裏庭(2坪ほどの)に野良猫が6匹住みついで困っている。植木の根元に子どもを産んで追い出せなくなって、もう2年になる。一匹のメスは避妊手術をしてやった。私はいま、猫たちの食事と便の後始末をさせられ、いつか、どこかへ移住してくれることを願う毎日なのである。地球上は人間と万物の共生の場だというのが、動物難民の受け入れにも限界がありそうだ。

(漫画家)

なきごえ12月号もくじ

動物と私 2
 オランウータン来園 3
 飼育係が見た飼育係と動物園 4・5
 CBSG・シンガポール総会に出席して 6・7
 動物園日記・動物園グラフ 8・9
 獣医室から ⑤⑥ 10
 動物園ニュース 11

表紙の写真説明

イワトビペンギン

(*Eudyptes crestatus*)

赤い目と眉あたりの黄色い飾り羽が特徴。お腹の白い部分は水中の天敵からのカムフラージュ。ピョンピョンと跳びはねる仕草はご愛嬌 (撮影：大川光雄)

表紙

撮影者名

1 ヒツジ	長瀬健二郎	7 ヒョウ	中川哲男
2 アジアゴールデンキャット	大川光雄	8 コサギ	榊原安昭
3 コクチョウ	大野尊信	9 ローランドゴリラ	安下実
4 オオサイチョウ	中山良三郎	10 イヌワシ	長瀬健二郎
5 コウノトリ	吉本昌俊	11 アムールトラ	永田健一
6 オオガラゴ	野口秀高	12 イワトビペンギン	大川光雄

動物と私

執筆者名

1 南 楚 雅 彦	藤井毛織(株)社長室	7 榊原 茂	海遊館飼育展示部長
2 大 庭 照 代	千葉県立中央博物館学芸研究員	8 村 上 昭	大阪市天王寺動植物公園事務所副所長
3 剣 崎 直 佑	(社)大阪市獣医師会長	9 八 木 修	(株)ネイチャーランド
4 阿 部 知 暁	画家	10 松 川 昭 夫	大阪市建設局花と緑の推進本部長
5 関 優	(社)大阪自然環境保全協会主任講師	11 柴 田 保 彦	大阪市自然史博物館館長
6 森 豊	(財)日本カモシカセンター理事	12 松 葉 健	漫画家

お目見え動物

撮影者名

1 キリンの赤ちゃん誕生	竹田正人	7 カナダガンのヒナ誕生	大川光雄
2 元気いっぱい! ショウガラゴ	大谷直樹	8 ブラックバック入園	竹田正人
3 ふ化したハワイガン	土谷正道	9 ドリルの花婿来園	中川哲男
4 お目見得した北極グマの赤ちゃん	浅田保夫	10 ブラッザグェノンの赤ちゃん誕生	吉本昌俊
5 エミューの赤ちゃん誕生	赤松建	11 アネハヅル、ペアで来園	赤松建
6 ニホンコウノトリ只今見合中	森本委利	12 オランウータンの花嫁来園	土谷正道

動物園グラフ

撮影者名

1 ヒツジあれこれ	長瀬健二郎	7 塀に描かれた動物達の面々	大川光雄
2 中国の動物達	榊原安昭	8 今年生まれの赤ちゃん	竹田正人
3 天王寺の角のある動物	森本委利	9 秋の動物園も赤ちゃんがいっぱい	榊原 勲
4 鳥の目	中川哲男	10 上海の仲間たち	永田健一
5 コアラのエサ	野口秀高	11 はかる……いろいろ	早川 篤
6 クマの勢揃い	大野尊信	12 国際交流の動物たち	野口秀高

特別寄稿

執筆者名

1 ① 羊の郷土玩具	平田 嘉一 (動物郷土玩具蒐集家)
② 緬羊の品種	正田 陽一 (茨城大学教授)
3 動物園生活を振り返って	中川 志郎 (前. 東京都恩賜上野動物園長)
4 ユリカモメがやってきた	松岡 貞男 ((社)大阪市獣医師会事務局長)
5 ① 動物園での思い出	伊東 重朗 (前. 大阪市天王寺動植物公園事務所長)
② 厳冬の黒部峡谷に動物のくらしを探る	山本 茂行 (富山市ファミリーパーク飼育展示係長)
6 ボルネオの野生動物	北浦 賢次 ((財)日本野生生物研究センター研究員)
7 動物にことよせて(狂言のおはなしをちょっと)	山口 耕道 (申楽大和座狂言師)
9 暴れん坊將軍と象	大庭 脩 (関西大学文学部教授)
10 動物とのめぐりあい	寺田 裕 (農林水産省草地試験場)
11 チンパンジーと教育	松沢 哲郎 (京都大学霊長類研究所助教授)

連載

執筆者名

1 キーパーズアイ 早川 篤, 原田 勉	7 ケンちゃんの好きやねん動物園⑩ 松葉 健
2 公園・花だより③ 大野 尊信, 山元 貞幸	8 獣医室から⑤ 竹田 正人
3 ケンちゃんの好きやねん動物園⑬ 松葉 健	9 キーパーズアイ 松下 達夫
4 獣医室から④ 榊原 安昭	10 公園・花だより⑤ 山元 貞幸, 浦 隆秀
5 キーパーズアイ 原田 勉, 岡田 博之	11 ケンちゃんの好きやねん動物園⑭ 松葉 健
6 公園・花だより④ 中垣 圭史	12 獣医室から⑥ 長瀬 健二郎

飼育観察記事

執筆者名

6 ホッキョクグマの繁殖V2	森本 委利
7 サル類の繁殖	大野 尊信, 岡田 博之
10 キリンを飼育して	小谷 信浩
11 チンパンジー舎のリンゴ日誌	仲谷 登

紀行・記録・その他

執筆者名

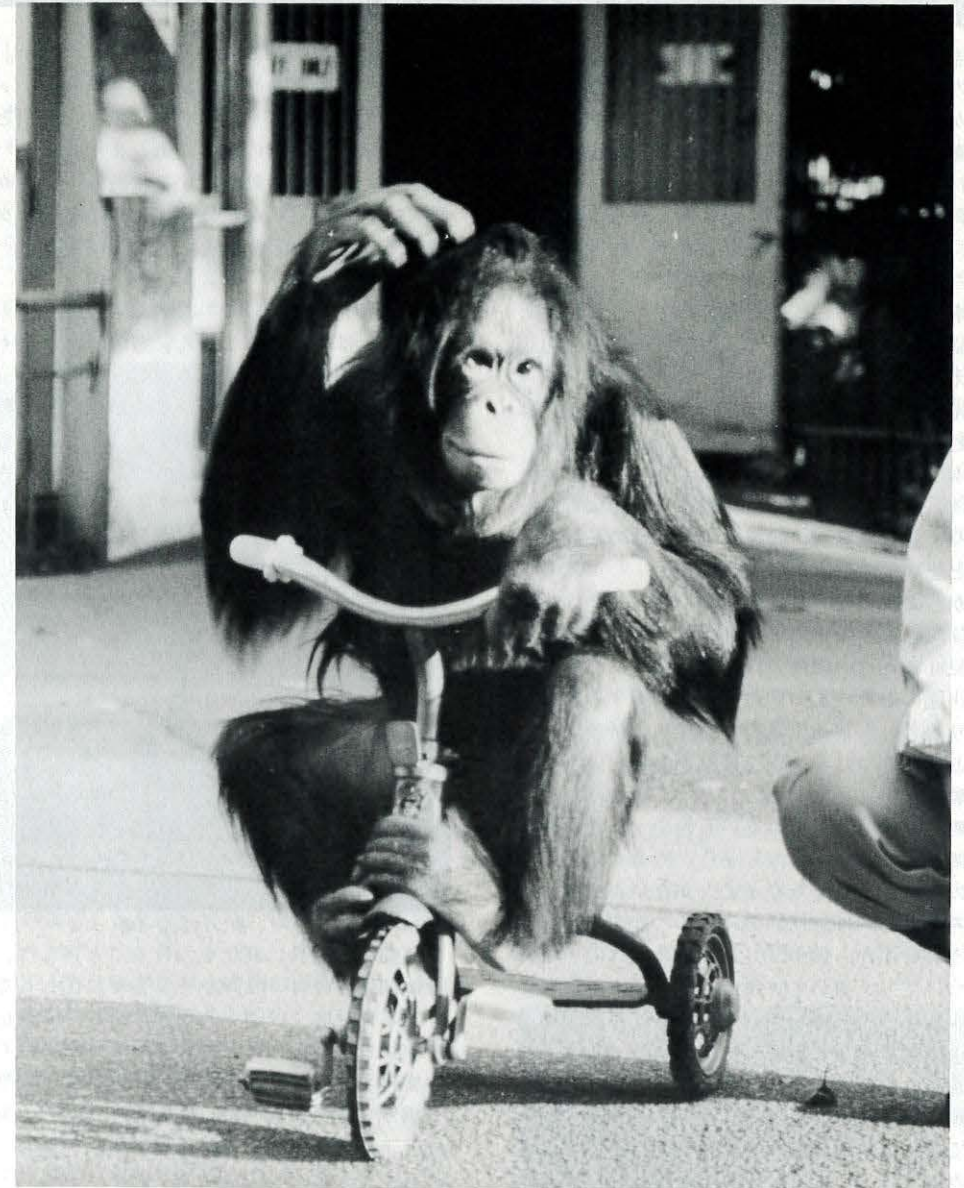
2 ① 訪中雑感	中山 良三郎
② 動物名今昔ばなし	中川 哲男
3 アメリカ動物園訪問記	長瀬 健二郎
4 動物園の活性化について	大谷 直樹
8 ① 選ばれた青い星を守るために	中山 良三郎
② 環境問題と生態系	中川 哲男
9 サマースクール特集	吉本 昌俊
12 ① CBSGに参加して	宮下 実
② 飼育係が見た動物園と飼育係	早川 篤

動物園日記

1~8 竹田 正人 9~12 榊原 安昭

動物園ニュース

1~12 森本 委利



“オランウータン来園”

宮崎フェニックス動物園より、ブリーディングローンでメスのオランウータンが来園しました。
 今は、お見合い中ですが、うまくいって、二世誕生がたのしみです。
 (大谷正道)

飼育係になってからというもの人に紹介などされようものなら、動物に関しての質問攻めにあってしまう事が多くあります。

動物園に働いているのだから、何でも知っていると思われるのでしょうか。しかし、私のように経験の浅い飼育係だと、担当動物もそう多くありません。しかし、動物のことにについて聞かれて、知らない事ばかりだと悔しいじゃありませんか。かと言って知らない事は知らないで、「また調べておきます。」と言って話題をかえるのですが、翌日には早速、担当者に答えを聞きに行くことになるのです。

この先輩に話を聞くということが、私にとってはとても勉強になるのです。経験豊かな人達の話は、どんな本よりも実践的で役立つ事が多くあります。

今回は、飼育係の日常的な作業の一面を飼育係というより、動物園好きのお兄ちゃんとして紹介していこうと思います。

§ 動物からのメッセージを伝えたい

飼育係になって驚いたことのひとつに、動物園は動物を見せるだけの場所ではないということでした。

特に当園のように街の中にあって利用する方も自然と切り離された都市生活者中心である所では、自然と人とを結びつける大きな役割があるということです。動物を見て「かわいい」だけではなく、彼ら自身に興味を持ってもらいたいものです。そこからまた疑問が生まれてくるでしょう。でも多くの人にはひとつの動物をじっくり見ることがないようです。

もちろん、それは展示の側に多くの問題点があるとは思いますが。例えば、サル山の前には“この猿を見つけて”と書いて1枚の写真が貼ってあります。サル類担当の大野・岡田両氏の、「写真の猿を見つけようと1頭ずつ細かく観察するうちに、いろんな事を各人が感じてくれればええねんけどな。」という願いが込められているそうです。自然界からの使者である動物達の言葉を伝えるのは、飼育係の仕事なのです。



サル山前の“1枚の写真”

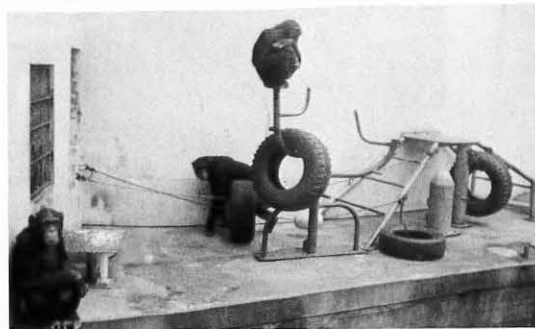
§ 動物の生活を見てほしい

チンパンジー舎では、3頭の若いチンパンジーを

相手に飼育係の仲谷さんが頑張っています。(詳しく内容は、先月号の記事を読んで下さい。)

運動場には、アリ塚やナッツ割りの道具と一緒にタイヤとチェーンの遊具があります。チンパンジーはとても頭のよい動物ですし、遊びたいさかりの3頭ですから、どんなに仕事が忙しくても、タイヤの位置を換えたりと少なくとも3日に1度はパターンを換えているそうです。

“エサを与えないで”といくら注意しても、エサをやる人は後を絶ちません。与える側の人も皆さん動物が好きで何とか彼らとコミュニケーションをもちたいと思って、ピーナツ等を投げ入れるのでしょうが、投げ入れる方は1回でも、与えられる側は相当な量になります。太り過ぎや下痢はもちろん、給餌量の資料も科学的価値をなくしてしまいます。そして手を差し出すような“おねだり行動”などの悪癖も身につけてしまいます。



チンパンジー舎

運動場の遊具に変化をつけることにより、遊ぶ事や他個体とのコミュニケーションに忙しくなったチンパンジーは、近頃、入園者に対して興味を示すことが少なくなってきたそうです。そんな彼らの行動の変化を見ながら仲谷さんは、「動物達の自然な生態が展示できるように僕は工夫しているだけ、見る人に彼らの日常生活を見せる様にしたいだけや。」と話してくれました。

§ 飼育係はアイデアマン

ダマシカは、オス1頭メス2頭で飼育されています。しかし、発情期になるとオスがメスを追いかけてまわしたり、時にはメスが隅に追いつめられたりすることがありました。ふつうシカの仲間は1頭のオスが複数のメスと交尾をします。そのためオス同士で激しい順位争いがあります。動物園という限られた場所で生活しているため順位を決める相手はいません。よく動物園にいる動物達は、野生を失ったペットのように思っている人が多いようですが、そう簡単に本能が消えてしまうことはありません。ダマシカのオスも体の中から湧きあがってくるパワーを近くにいるメスにぶつけます。追いかけるだけなら

まだましなのですが、時にはケガをすることさえあります。そこで飼育係の丸本さんは、シカ舎の中に太い丸木2本で作った遊具とメスの避難場所を作っています。

遊具は2本の木の間にチェーンを利用し、木の束をぶら下げたものです。丸木は、オスが角をこすりつけたり、頭を押しつけたりするのに使い、チェーンでつり下げた木は振り子のように動き、それに角をあてたり押し返したりとまるでチャンバラでもするように遊んでいます。



シカの遊木

メスの避難場所は、シカ舎奥の小屋横のL字型のスペースを利用して作ってあります。入口はメスの体に合わせた格子になっていますから、オスに追いかかれた時には逃げ込めるようになっています。でも、体の大きなオスは、大きな角が邪魔して簡単には中に入れません。しかもL字型の奥に入り込めば、小屋が目隠しとなってオスの視界からも姿を消せるというわけです。

「中に入って仕事出来る動物の場合には、一頭ずつの特徴や状態を把握しておくのが大切な。そして、動物にあわせて人が工夫したらな。」とは丸本さんの言葉。動物の要求を理解するというには私にとっては、まだまだ難しいことです。

§ 食べてくれ…でもあまり食べないでくれ

動物園の南端、隣をJRの電車が通り過ぎていく所に、当園では2頭目の子供“みゆき”が元気に泳ぐホッキョクグマ舎があります。ここでは、飼料をめぐって飼育係の頭を悩ます事がありました。

動物園の飼料室に案内すると、「動物って、エエもん食べてるんですなー。」とか「人間でも食べれるね。」とか言われます。でも、よく考えてみれば動物に与えるものも、人が食べるものも同じでしょう。人が食べられないような品質の悪いものを動物が食べていると思っている人が多いようですが…。

動物達が食べるものは、全て飼育係がチェックし調理します、ホッキョクグマの主食は以前は冷凍馬肉だったのですが、脂身や筋が多いものもあり品質が安定していません。そこで9月から品質も安定し、

しかもビタミン・ミネラル類も添加されているネコ科動物用に開発された冷凍のミンチ状になった肉を与えることにしました。

動物に新しいものを与える場合は、従来のエサに少しずつ混ぜていき慣らしていくのですが、仕入れの都合で馬肉からミンチ肉にいきなり代えなければなりません。担当者の浅田さんの予感が見事に的中してしまいました。オスと子供は何の抵抗もなく食べてくれたのですが、メスのユキコは食べようともしませんでした。ユキコは食べる前に臭いをかぎブイと横を向いてしまいます。そこで好物のソーセージやハチミツを混ぜたりした結果、一週間後にペロリと食べてくれました。ホッとしたのも一日だけ。次の日から食べません。毎日ソーセージやアジを混ぜたりした結果、20日目にやっと食べ始めてくれました。後は様子をみながら、ソーセージ等の混ぜたものを少しずつ減らすだけと浅田さんもホッと一息。でもユキコは子育て中の大切な体だけだけに心配でどうしようもなく、どうしたら食べてくれるのか、このまま食べなかったら…と毎日エサの事しか考えていなかったそうです。でも、これで安心というわけではないそうです。ミンチ肉というのは柔らかくてかまずに食べてしまいますから、あごの力が弱くなってしまうのが心配だそうです。それに消化もよく、この頃みゆきが太り気味になってきたそうです。しかも母娘と一緒に食事をしているから母親には、今までの分をとり戻すためたくさん食べさせたいし、そうすればみゆきは母親の分まで食べて太ってしまうし、当分浅田さんの苦労は続きそうです。



ソーセージを混ぜて特別メニューの出来上り

ここに書いた話は、動物園の中のほんの1ページです。私は動物や先輩たちから毎日実に素晴らしいものを学ばせてもらっています。皆さんも、動物園に来て動物たちをゆっくり観察してください。きっと彼らの言葉が伝わってくると思います。

(飼育課：早川 篤)

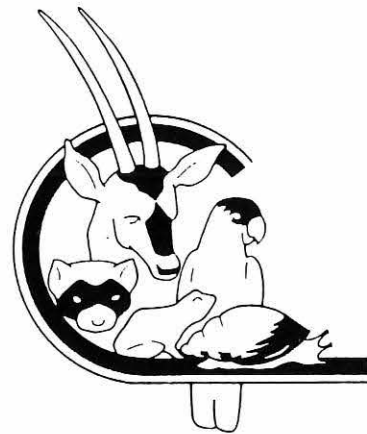
CBSG・シンガポール総会に出席して

なきごえ27(12).1991

§ CBSGとは

CBSGといわれても、おそらく一般の方々には馴染みのない言葉でしょう。これはCaptive Breeding Specialist Group(飼育下繁殖専門家集団)の略称で、動物園や水族館を始めとする動物飼育施設で希少動物の飼育、繁殖計画、研究を行っていく専門家の集まりです。この上部組織はIUCN(International Union for Conservation of Nature and Natural Resources:世界自然保護連合)であり、その中の6つの委員会の1つであるSSC(Species Survival Commission:種保存委員会)の中にある、70ほどの作業部会の1つがこのCBSGです。会員は動物園

長や水族館長などが半数以上を占め、動物園の技術者、大学、研究所の研究者などで構成されています。1991年は世界各国から294人が選出されました。日本からは12人がメンバーなのですが、実は私もこの春から日



CBSGのシンボルマーク

本動物園水族館協会の推薦を受け、CBSG会員として登録されました。私は決して飼育、繁殖技術の専門家ではありませんし、それに関した研究も行っていませんので、こんな大任をお受けしてよいのか戸惑いました。シオザルの繁殖計画調整者としての国際的な交流促進と国際シンポジウムへの出席が評価されたのでしょうか。それにしてもまだまだ実績の乏しい私にとっては、尻込みをしたくなかったのです。なにしろCBSGのことすらよく知らなかったのですから。

そんな折りに今年のシンガポール総会の案内が届きました。CBSGを理解するにはまたとない機会でしたので、とにかく出席することにしました。

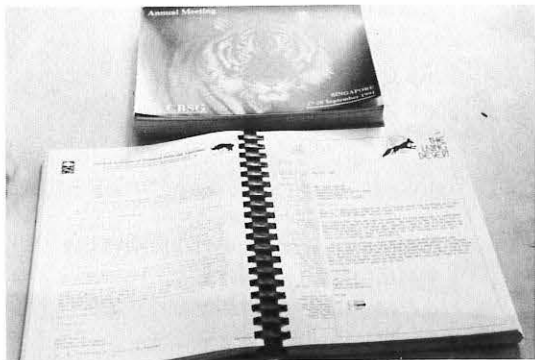
§ アジアでの初の総会

1991年度総会は9月27~29日の3日間、国際園長連盟の総会開催に先だって開かれました。アジアでの初の総会ということもあって、日本からも20名という多くの参加者がありました。世界各地からの参加人数が160名ですから、日本からの出席者は大変な数だったわけです。というのも、過去のこの総会には日本から1~2名の参加しかなかったといえますから、近いということもあったのでしょうか、それだけ多くの関心を集めたとも言えるでしょう。

私は総会前夜にシンガポールに到着しました。5年ぶりということもあって、到着後は早速ホテル近

くのニュートンサーカスへと赴きました。ここはシンガポールの代表的な屋台街で、中国料理を中心にインドネシア、マレー、インドなどの屋台が100軒あまりもひしめいており、土地の人々はもちろん外国人観光客にも人気のある飲食店街です。明日から3日間続く会議に備え、大いに食べ、飲み、鋭気を養ったことは言うまでもありません。

27日朝、昨夜のアルコール分の名残を感じつつ、会場のダイナスティホテルに向かいました。受付で登録を済ませ、Agenda-Briefing(議案・資料集)をもらいましたが、その重量感にまず眠気が吹き飛びました。なにしろ手渡されたA4サイズ2冊の厚みは8cm、重さは3kg、すばらしい資料をもらえたうれしさの反面、こんなに重たいものをと、複雑な心境になりました。



ボリュームたっぷりの議案・資料集

大きな会議場はすでに3分の1近くが埋まっており、多摩、東山、とべ、長崎鼻などの園長諸氏や名古屋港水族館長、上野動物園の浅倉元園長、中川前園長など日本の動物園、水族館のお歴々の顔も見えましたので、まずは挨拶をしてみました。

会議はCBSG会長のシール博士の司会で始まりましたが、この人の人柄には感心させられます。昨年の名古屋で開催された種保存委員会拡大会議にも来賓として出席され、講演をされましたが、マイクなしでも会場の隅まで届く太く威厳のある声にまず驚かされました。説得力のある分りやすい英語にも感激しましたし、直接そばで話をしてみて、そのスケールの大きさと温かみに一層親しみを感じました。今回も会場の緊張をときほぐすかのように時にはユーモアをまじえながら、円滑に議事を進められるのが印象的でした。

§ 広範なCBSGの活動

3日間にわたる報告は広範囲にわたるもので、もちろんすべて英語で行われました。私の語学力からとても全てを理解することは困難であり、特に専門用語を早口でしゃべられると、耳は休みの状態にならざるを得ませんでした。ヒヤリングがせめてもう少しできればと思うのは、国際会議の時に常に思うことなのですが、それでも大きな手助けとなったのは、さきほどのあの分厚い資料集でした。

なきごえ27(12).1991



CBSG総会の全体会議風景

主な報告は下に記したとおりです。

- ① CBSG年次報告
- ② 地球的規模での飼育下保護増殖ネットワーク
- ③ ISIS(国際種登録機構)
- ④ 国際血統登録
- ⑤ 遺伝子資源保存銀行
- ⑥ 世界自然保護連合における種保存委員会
- ⑦ 地球的規模での飼育下繁殖実行計画
霊長類、ネコ科、水禽、シカ類、アジア産サイチョウ類
- ⑧ 動物園保護増殖戦略

この中でも遺伝子資源の保存には以前から関心がありましたので、これだけは耳を休めることなく報告に集中させました。家畜では当たり前となった人工授精、精液凍結保存、受精卵移植などを飼育下で繁殖率の低い希少動物に実施していこうというもので、世界のレベルは日本では考えられないほど進んでいます。

それにしても本当にいろいろな分野の専門家が集結しているものだと、感心しました。野生で危機に瀕する動物の調査から始まりですが、それに伴って種もしくは亜種を正確に同定しておくことも必要です。このためには野生での調査研究者、分類学者が必要です。次に飼育下での収容可能数、受入施設などの調査が必要です。そのためには北米、ヨーロッパ、オセアニア、日本などの各地区の収容施設を熟知しておかねばなりません。動物園関係者が必要なのは当然です。受け入れた動物の身元を知るためには血統登録担当者が必須です。飼育、繁殖のためには専門技術者がいますし、野生での生態を知っておく必要もあります。さらに獣医学的、医学的、生化学的、いろいろな学術的専門家も必要です。またこれらの情報を収集・整理し、提供していく人員も必要です。それらをこのCBSGは会員としているのですから、いやはや大変な組織です。

全体会議において分科会討議も行われました。これは30近い分科会に分かれおり、私は霊長類の分科会に参加しました。しかし、2つの会場内でテーブルを並び変えただけで、10以上もの分科会を行うのですから大変です。1つの分科会から2mも離れて

いない隣のテーブルでは別の分科会をしているわけで、その雑音たるや甚だしく、発言者が反対側を向いてしゃべろうものなら、まったく聞こえない状態、ましてや英語で早口で討議するのですから、英語を母国語としない人にとっては要領がまったくつかめない状態になってしまいました。静かな所で討議してはという提案で、20人ほどの霊長類分科会参加者がぞろぞろと隣室へ移動したのですが、ここも騒々しく、結局この日には霊長類分科会から提案ができず、翌日に持ち越されてしまいました。



分科会開催中。手前側が霊長類分科会

§ 交流を深める

国際的な会議というのはコーヒープレイクをたっぷりとっています。ロビーでの情報交換も重要だという認識からでしょう。知った顔はないかと思っていると、まずドイツ霊長類センターのカウマンズ博士を見つけました。彼はヨーロッパのシオザル繁殖計画調整者であり、昨年のサンディエゴでの国際シンポジウムの際に友人になった1人です。1年ぶりの再会を喜び、しばし話し込んだ後、ドイツ・ウィルヘルム動物園の園長を紹介してもらいました。というのも7月にウィルヘルム動物園のご好意でドリルを1頭貸し出してもらったので、ぜひともお礼を言いたかったからです。懐かしい人にも会えました。サンディエゴ動物園の哺乳類課長のドーラン博士やアメリカ動物園水族館協会自然保護部長のハッチンスン博士とは1986年の国際カモシカシンポジウム以来ですから5年ぶりです。

この会議で新たに多くの人と知り合いになれました。特に今回はシンガポール、インド、インドネシア、タイなどアジア諸国の関係者と交流を深めることができたのは、私自身、大きな成果でした。

何も分からないままで飛び込んだCBSG総会でしたが、「種の保存」を目的とした地球的規模での活動に直接に接することができ、大きな感銘を受けました。それとともに、ロビーで交流を深める英語も大切ですが、会議で討論できる英語を身に付けなくてはと痛感しました。CBSGの総会は毎年ありますし、次のシオザル国際シンポジウムはもう2年後に迫っているのですから。(飼育課:宮下実)

(写真は上野動物園飼育課の黒鳥英俊氏提供)

動物園グラフ

“海外からのニューフェイス”

今年も外国から多くの仲間が来園しました。みんな日本の環境にもなれ、入園者の皆様に元気な姿を見せています。

(構成：野口秀高)



コヨテ

中央アメリカの草原に住み、ソウゲンオオカミの別名があります。オオカミより体は小さく耳が長く口吻はとがっています。アメリカサンディエゴワールドアニマルパークより。



キーウィ

口吻が細長く、土中の昆虫やミミズ等をさがすのに適しています。夜行性の飛べない鳥です。ニュージーランド・ロトルアレインボースプリングズより。



ヒクイドリ

頸から頭部にかけて、赤や青色に化粧した飛べない大きな鳥で、ニューギニアからオーストラリア北部の森林に生息しています。シンガポール・ジュロンバードパークより。



サイチヨウ

大きなくちばしが、サイの角のように見えるのでサイチヨウと呼ばれています。インドからマレー半島、スマトラの森に生息しています。シンガポール・ジュロンバードパークより。

10月の動物園日記

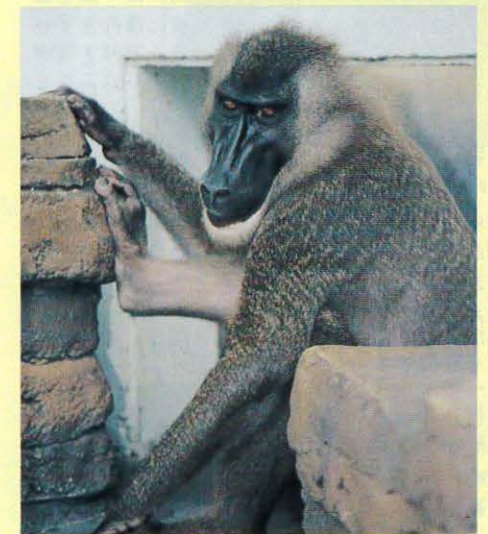
- 10/ 1. 暖房用ボイラーの火入れ式を行ないました。
- 10/ 2. 大阪・上海第8次動物交流で上海動物園の動物護送団一行4名が来園されました。
- 10/ 3. 上海動物園から寄贈していただいたヨウスコウワニとアネハヅルの贈呈式を行いました。ガビチョウが1羽孵化しました。
- 10/ 4. 上海動物園の一行との技術交流会を行いました。
- 10/ 7. 神戸市立王子動物園で開催された日本動物園水族館協会の種保存委員会の拡大会議に当園から中山所長と宮下主査が出席しました。

- 上海動物園の一行が大阪での日程を終え、名古屋、東京方面に出発しました。
- 10/ 9. 大阪市の姉妹都市であるソビエト連邦のサンクト・ペテルブルグ市のレニングラード動物園にタンチョウ1番とボリビアリスザル3頭(オス2頭、メス1頭)を贈りました。
- 10/ 1. 上海動物園の一行が東京から帰国されました。
- 10/13. ブタオザルの赤ちゃん(オス)が生まれました。秋の動物と花のフェスティバルが始まりました。(11月4日まで)



シシオザル

顔にはライオンのタテガミのような毛があり、尾の先端はふさになった毛があるので、シシオザルという名がついています。希少種として国際保護動物になっています。アメリカからの3回目としてシカゴ・リンカーンパーク動物園より。



ドリル

西アフリカの森林に生息し、マンドリルの近縁ですがマンドリルの顔のように極彩色ではなく、黒くつやのある顔をしています。ドイツ・ウイヘルマ動物園より。



アネハヅル

頭部に白い飾羽があり、アジア中西部で繁殖し、冬になると迷鳥として日本にも渡ってくるがあります。上海動物園より。



ヨウスコウワニ

揚子江の河口に住み、口吻は短く丸い小型のワニで、前足に水かきはなく、後足の水かきもあまり発達していません。中国の第一級動物です。上海動物園より。

- 10/15. 当園生まれのオランウータンのオス(サブ)と番にさせるため、宮崎市のフェニックス自然公園よりオランウータンのメス(モモコ)を借り受けました。コノハズクが1羽保護されました。
- 10/20. ヤギが1頭生まれました。ゴジロウミツバメが1羽保護されました。第78回動物のお話とスライドの会で村田係員がカンガルー舎前でカンガルーのお話をしました。
- 10/21 本年生まれのタンチョウ4羽を性別鑑定のため採血しました。コアラの屋外展示を始めました。

- 10/25. 10月15日に来園したオランウータンの“モモコ”をオスの“サブ”と室内で同居させました。飼育技術研修会で横浜市の金沢動物園の橋川さんに「ゾウの飼育における安全対策」についてお話をいただきました。
- 10/27. 慶沢園でツリーウォッチングを開催しました。
- 10/30. トカラヤギが1頭生まれました。
- 10/31. シロマダラの寄付がありました。

§ はじめに

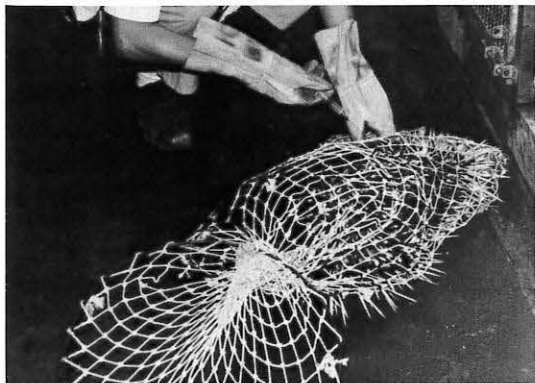
8月号では様々な薬の与え方についてお話ししましたが、動物園で飼われている野生動物では「薬を与える」と一言で言ってもなかなか簡単には行きません。「今から注射するからね」と言ってもだまって手を出してくれる動物などいません。そこで自ずと網で押さえたりする必要が生じるのですが、このように動物に様々な処置をするために押さえることを、保定と呼んでいます。確実に迅速に保定することによって人も動物も無用なケガをすることなく目的を達することが出来るのですが、今月はこの保定法についてお話したいと思います。

§ サルの保定

玉網で捕まえらる程度の大きさのサルは玉網で捕獲し、両手を後ろに廻してつかみ、もう一方の手で頭を押さえます。

§ 小形哺乳類の保定

小型哺乳類の場合も保定には玉網を使います。動物を入れてから網の部分でグルグル回し、絞ります。こうすると動物は動けなくなります。しかし、網は綿糸で出来ていますから、油断すると網を食い破られて頭が出ることもあります。



もっと小さい動物の場合は皮手袋をつけて直接首筋を押さえます。この時、手袋が短いと露出した手を足で引っ掻かれたりしますので、肘まであるような長いものを用います。

コアラの場合は人に馴れていますので、頭からスッポリと麻袋を被せて押さえます。

§ 大形哺乳類の保定

アシカの保定は少々厄介です。体が大きく、柔軟なのでなかなか玉網に入れることが出来ません。そこで、広い立て網で体を包み、ぐるぐる巻きにして動けなくします。

ライオンに注射する時、スクイズゲージというものを使ったことがあります。これは一方の壁が可動式になって動かすことが出来、もう一方の壁との間に動物をサンドイッチにしてしまうものです。

ただ、この時は動く壁の四隅にロープをかけ、合計8人で引っ張ったのですが、ライオンが猛烈に暴れると8人でも完全に押さえ付けることは出来ませんでした。

§ 鳥類の保定

小鳥やキジ位までは玉網で十分です。しかし、ツル位になると首が長かったりして網に入れにくいので直接、手で押さえます。鋭い嘴で人の眼をつつこうとしますから、まず嘴をつかみ、それから翼をたたませるようにして押さえ、そして足もたたませて押さえ込みます。やはり2人は要りますから、嘴をつかむ人と体を押さえる人の呼吸が、うまくつかまえるポイントになります。処置している間、危険な嘴はテープで巻いてしまったり、先端にコルクを付けたりすると、もしつつかれることがあっても安心です。ただ、ダイビングして魚を採るカツオドリやカシヨクペリカンなどは鼻の孔が無いので、あまり強く握っていると呼吸ができなくなって窒息する可能性があるので要注意です。

ワシやタカの仲間も捕獲には玉網を使いますが、鋭いのは嘴だけではなく、爪も大変危険です。嘴と足を同時に保定してしまうことが大切です。

鳥の場合、頭に黒い袋を被せてしまうと比較的落着き易いようです。鳥は捕まえられたショックでエサを食べなくなったり、極端な場合、そのまま死んでしまうこともありますので、様子を見ながら落ち着かせ、手早く処置してしまふことが大切です。

日本では当園でしか飼われていず、ニュージーランドの国鳥でもあるキーウィは翼がほとんど無く、嘴は長くて折れそうなので足をつかみます。普通の鳥では飛ぶための筋肉が胸に厚く付いていますが、キーウィの場合、翼が退化していてもその分、胸の筋肉も少なく、骨も弱いのので、体はそっと支えなくてはなりません。

§ 麻酔銃

8月号でも述べましたように、以上の保定が出来ない大形の動物に注射する場合は麻酔銃や吹矢を用います。一般の方は麻酔銃を麻酔だけのためのものと思われていますが、これは金属製の注射器を飛ばす銃です。ですから、この注射筒に様々な薬液を入れることによって、それぞれの注射が出来ます。

§ おわりに

このように野生動物の場合、注射1本、消毒一つするのも大変です。動物の体も大事ですが、人がケガをしてしまつてはなにもなりません。人も動物も最少限のダメージで目的が達せられるようにいつも考えながら治療にあたっています。

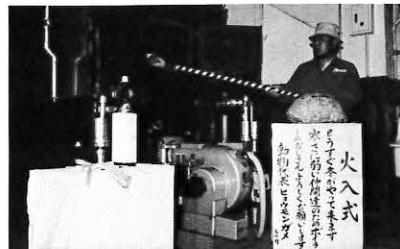
(飼育課・長瀬 健二郎)

動物園ニュース

§ ボイラーの火入れ式

今年も10月1日、恒例の暖房用ボイラーの火入れ式を行いました。当園では、ゴリラ、チンパンジー、オランウータンなどの類人猿やカバ、爬虫類等の寒さに弱い動物たちが、冬を暖く過ごせるように、毎年10月初めから翌年春の5月頃まで、動物舎に暖房を入れて厳しい寒さから動物を守っています。

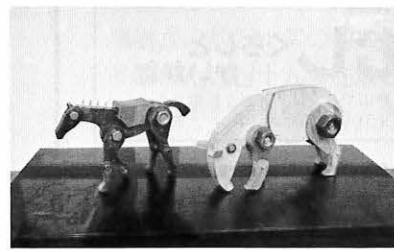
この火入れ式は、暖房期間中の動物の健康とボイラー操業の安全を願って行われる行事で、今年はボイラーのお世話になる動物の代表として、ヒョウモンガメが担当飼育係員の手助けによって、ボイラーに火入れを行いました。



ボイラーの火入れ式

§ 秋の動物と花のフェスティバル'91開催

「秋の動物と花のフェスティバル'91」が10月13日から11月4日まで開催されました。主な内容は、花のスタンプラリー、水上ステージでの生演奏、「第7回天王寺動物園写真コンクールの募集」や、展示室では、エピソードのある動物たちの剥製を展示する「剥製展」、ねじを使って可愛い動物を表現した「ねじの生きものたち展」。



ねじの生きものたち展と剥製展

「こんにちは、どうぶつくん」等様々なイベントがくりひろげられました。

§ オランウータンのサブのお嫁さん来園

10月15日、5歳になるオランウータンのオス「サブ」に、宮崎市にあるフェニックス自然動物園からお嫁さんの「モモコ」が来園しました。モモコは、

現在の飼育動物数

(平成3年10月31日現在)

哺乳類	12目	94種	447点
鳥類	20目	170種	848点
爬虫類	3目	30種	91点
点	35目	294種	1386点

横浜市野毛山動物園生まれで、2歳からフェニックス動物園で飼育されており、現在サブと同様5歳というこ



やってきた花嫁「モモコ」

似合のカップルといえます。

絶滅の危機に瀕しているオランウータンの繁殖を推し進めるため、ブリーディングローンで当園がお借りしたものです。

§ 全国飼育の集い開催

10月22日・23日の2日間にわたり、第7回全国飼育の集いが、当園レクチャールームで開催されました。



全国飼育の集いの会議風景

この集いは、全国の動物園や水族館の飼育関係者が年に一度集まり、親睦と技術交流を通じて自己啓発と互いの資質向上を計ろうというものです。今回は北は北海道から、南は九州まで140名の飼育関係者が集まり、活発な討論が行われました。

来年の開催地は、10月頃に京都市動物園で開催される予定です。

§ 平成3年度天王寺動物園協会理事会の開催

11月12日に動物園レクチャールームで動物園協会の理事会が開催され、平成3年度の事業中間報告、協会事務所の移転などについて審議承認されました。

●お知らせ

動物のお話とスライドの会
12月15日(日) 動物園裏側ウォッチング
1月20日(日) サルのお話
時間：午後1時～2時
場所：ウォッチングはレクチャールーム集合後、要領説明の後、園内へ引率。お話はレクチャールーム。

●テレホンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレホンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。

電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ 光のくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究者)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

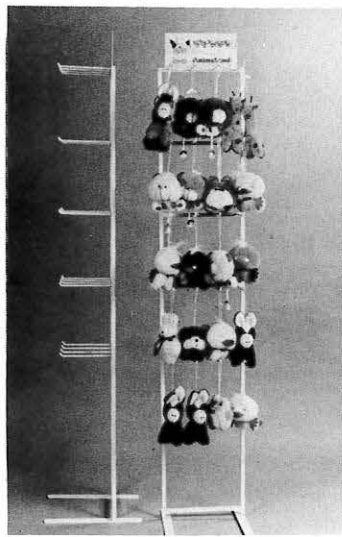
入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

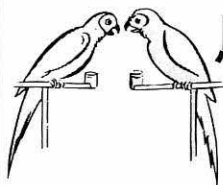


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

——各種ぬいぐるみ企画・製造・卸——

有限会社 **アニメランド**

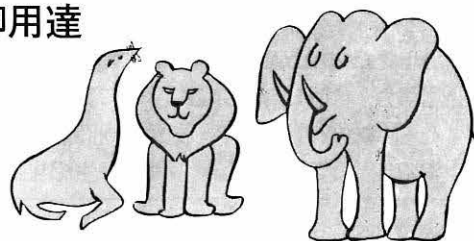
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

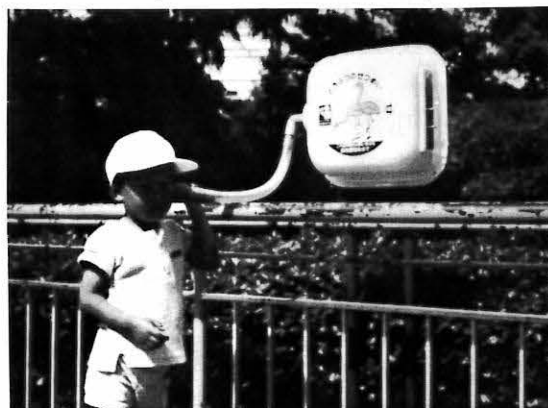


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

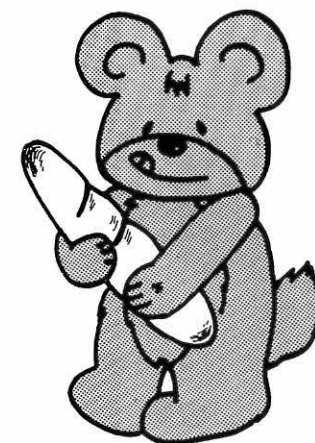
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

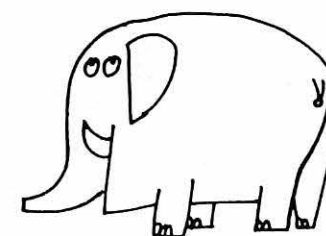
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

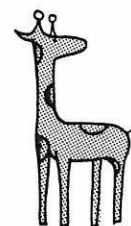


南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



しほりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印
ヨーグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年12月10日発行 (毎月10日発行) 第27巻 第12号 (通巻316号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 土井良彦
印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 3-37823

編集委員 (中山良三郎 / 村上 昭 / 中尾啓一 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 山根和弘 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭)
(森本委利 / 竹田正人 / 永田健一 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 健 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道)